

1

天觀(天觀)の自生的近代性比較

Comparison of Autogenous Modernity in Views of Heaven

目次

- 1 研究の背景および目的
- 2 三才(三才)と三界(三界)概念の比較
- 3 大巡思想における三界の特徴および意義
- 4 東学与大巡思想の世界観の比較
- 5 先天(先天)と後天(後天)概念の差異
- 6 経典および主要な引用句
- 7 思想的意義および近代性の比較
- 8 結論および示唆点

研究の背景および目的

東アジア思想伝統において「天観(天觀)」は天・地・人の関係を説明する核心軸である。これは宇宙論的世界観と人間存在の意味を規定する根本的観点である。

研究背景

- 東学和大巡思想は19世紀末~20世紀初に自生的に発生した韓国思想
- 両思想とも伝統思想を継承しつつ独自の天観体系を構築
- 西洋近代性と異なる方式で自生的近代性の土台を準備
- 既存の研究における天観中心の総合的比較研究の不足

研究目的

- 三才(三才)と三界(三界)概念の相違点と発展様相の照明
- 先天(先天)と後天(後天)概念の思想的淵源と意味の比較
- 両思想の自生的近代性が持つ現代的意義の再評価
- 韓国思想史における天観研究の学術的意味の拡張

区分	東学思想	大巡思想
主要な経典	東經大全 龍潭遺詞	典經 大巡真理会要覽
天観(天觀)中心の概念	侍天主(侍天主)、天主	三界(三界)、神明界(神明界)
世界観の方向性	道路先天(復帰的)	後天開闢(進歩的)

三才(三才)と三界(三界)概念の比較

東アジア思想において「三才」は基本的な宇宙論的原理であったが、大巡思想では「三界」というより体系的でシステムの世界観へと発展した。

三才(三才)概念

- 天(天)・地(地)・人(人)の三つの存
- 在 東アジア伝統哲学の基本枠組み
- 主に宇宙の構成要素として言及 東学で
- は超越的天(天)の役割を強調 属性中心
- の概念、関係性を重視

三界(三界)概念

- 天界(天界)・地界(地界)・人界(人界)の世
- 界 大巡思想で定立された概念体系
- システムの・実体的世界観へと発展
- 神明界(神明界)との連結性を強調
- 界(界)としての独立性と相互作用性の強調

区分	三才(三才)中心の世界観	三界(三界)中心の世界観
主要思想的源泉	周易(周易)、東洋伝統思想	大巡真理、道教・仏教の影響
世界構成の特徴	相互関係と属性の強調	独立的世界観とシステムの実体の強調
主要原理	陰陽の調和、変化の原理	神明との相互作用、天地公事
自生的近代性	人間中心、平等思想	神人協力(神人協力)、三界の調和

大巡思想における三界の特徴および

概要

大巡思想において三界(三界)は単なる概念的分類を越えて神明界(神明界)と緊密に連結され神聖の実体性とシステムの持続性を備えた独自の世界観を構築する。

三界の特徴

- 天界・地界・人界の有機的統合体系
- 各界(界)は独立的でありつつ相互連結された実体的システム
- 神明(神明)が活動する場所であり媒介
- 東洋属性論と西洋実体論の統合的特性
- 三界公事(三界公事)を通じた変革可能性

『典経』内の三界の

用例

- 三界公事(三界公事)天地人三界を開闢する公事
- 三界至尊(三界之尊)三界を主宰する至高存在
- 三界大権(三界大權)三界を主宰する最高権限
- 三界伏魔(三界伏魔)三界の無秩序を正す作用
- 三界開闢(三界開闢)三界の総体的変革

「三界が開闢されないのは先天で相克が人間の事を支配したので怨恨が世に積もり積もって三界を満たしたので天地が常道(常道)を失い様々な災禍が起こり世は惨憺たるものとなった。」

神明界の連結

天地・人界が神明の活動によって有機的に連結

システムの持続性

各界(界)は独立的実体であり相互関係的総体

東西思想の融合 - 『典経』公事1章3節

属性論的観点と実体論的観点の統合

東学和大巡思想の世界観の比較

東学の世界観

- 超越的天観-天外天(天外天)、天主(天主)概念を重視地上
- 天国概念-理想的地上世界の具現
- 輔国安民(輔國安民)を通じた人間解放の追求
- 侍天主(侍天主)思想-人の中に天主を侍する
- 道路先天(道路先天)-原始返本の世界観

大巡思想の世界観

- 三界(天界・地界・人界)の体系化され
- た世界構造神明界(神明界)の実存的位
- 相の確立
- 後天開闢(後天開闢)-新たな世界秩序の主唱神
- 人調化(神人調化)-神と人間の調和ある関係解

区分	東学思想	大巡思想
天観 (天観)	• 天主(天主)と天外天(天外天)の強調 • 超越的絶対者としての天 • 「天が即ち心であり、心が即ち天である」	• 天界(天界)と神明界(神明界) • 九天上帝(九天上帝)概念 • 体系的天地公事(天地公事)
地観 (地観)	• 地上天国の具現 • 現世中心の社会改革 • 農民運動的实践性	• 地界(地界)の独立的存在性 • 冥府公事(冥府公事) • 地上仙境(地上仙境)の建設
人間観 (人間観)	• 人乃天(人乃天)-人が即ち天 • 万民平等と人間の尊厳 • 道德的实践主体	• 人界(人界)と人尊(人尊) • 神人調化(神人調化) • 道通真境(道通真境)の主体

東学が超越的天観と人間中心の世界観を強調した一方、大巡思想は三界の有機的統合と神明界の実存的価値を基盤とした新たな宇宙論を提示した

先天(先天)と後天(後天)概念の差異

区分	東学	大巡思想
核心概念	道路先天(道路先天) :原始返本、過去志向的	後天開闢(後天開闢) :新たな秩序の創造、未来志向的
神観(神観)	天主(天主)、上帝(上帝) 侍天主(侍天主)中心	무극신(無極神), 태을천상원군(太乙天上元君) 신명계(神明界) 체계화
世界観	西学(西學)の影響を受けた天主概念と伝統思想の結合	三界(三界)と神明界の統合、東西理致(理致)の融合

東学の先天概念

東学は先天への回帰を通じた社会変革を追求

- 「侍天主造化定永世不忘萬事知 至氣今至願爲大降侍天主造化定」
- 『東経大全』呪文
 - ・ 天主が我が心の中にあるという侍天主思想
 - ・ 「兜率天主弥勒」のような仏教的概念と接
 - ・ 木
 - 西洋宗教の「神(God)」概念と類似する「天主」用語の使用

大巡思想の後天概念

大巡思想は後天開闢を通じた新天地(新天地)創造の志向

- 「先天では人間事物がすべて相克に支配され世に怨恨が積もり...後天では天下が相生(相生)に戻り...平和な世となる」
- 『典経』豫示81節
 - ・ 天界(天界)の再整備、天文(天文)・冥府(冥府)公事の開闢 陰
 - ・ 陽合徳(陰陽合徳)・三才確立(三才確立)・五行具備(五行具備)
 - ・ 東西洋理致の融合と新たな宇宙的秩序の確立

思想的意義および近代性の比較/結論

二つの思想は19世紀後半~20世紀初、西欧文物の流入と伝統秩序の変動の中で自生的近代性を構築する互いに異なる方式を示す。

区分	東学	大巡思想
近代性の特徴	超越的価値の強調 民衆救済志向	三界の柔軟性と統合性 神明界の体系化
歴史的方向性	道路先天(道路先天) 過去回帰的側面	後天開闢(後天開闢) 未来志向的世界観
東・西思想関係	東洋的超越性と西学(天主教概念)の混用	東西価値の融合 独自の三界体系の構築

主要な思想的意義

- 大巡思想は三界(三界)の実体性とシステム的特性を強調
- 神明界の導入で東西洋の実体・属性統合体系を具現
 - 東学は民(民)中心の革命的救援論、大巡は誠・敬・信(誠敬信)中心の天地公
 - 事二つの思想は共に西洋近代性と区別される独自の経路を提示

主要引用経典

- 東学:『東經大全』、『龍潭遺詞』 - 侍天主、天主概念
大巡:『典經』 - 「天・地・人の三界が互いに通ぜず」
大巡:『大巡真理会要覧』 - 三界公事、三界至尊概念 大
巡:『布徳教化基本原理』 - 神明界概念の体系化

結論

東学と大巡思想はそれぞれ異なる天観(天観)を通じて自生的近代性を構築した。東学は超越的天主と輔国安民の実践で、大巡思想は三界と神明界を通じた新たな世界秩序構築で、韓国近代思想史に独自の流れを形成した。このような天観の違いと発展は現代東アジア思想研究において重要な比較地点を提供する。